

若林 伸夫(わかばやし のぶお)先生のプロフィール

勤務先 特定医療法人社団 博友会 平岸クリニック

経歴 1961年 札幌医科大学 医学部卒後、5年間内科医局無給研究生
その後、日本生命医務部勤務。定年後、臨床に戻る。

日本東洋医学会、日本東方医学会、日本精神神経学会、日本AKA医学会

専門 心療内科、神経科、疼痛に対する手技治療(AKA、SJF等による)
中医学による医療



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

11才時で生来の虚弱と低体温に漢方と鍼灸医による治療をうけて、
効能を自覚したことがあったので、医師になって中医学に関心を持ちました。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

心療内科、神経科、リハビリ科で腰痛を始めとして関節痛を治療しています。
手技療法主体で漢方を併用すると高い効果を上げていると思います。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

約8対2で、漢方が主であると言えます。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

EBMが重用視されると思われるが、それだけで律することは大きな誤りです。
EBM自体が小さすぎます。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

大変多いです。

例えば、アレルギー性鼻炎に小青竜湯、腎虚に牛車腎気丸、
補中益気湯を使用して全治しました。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

自分で実際に使用することで体験することが大変に重要。
そこから範囲を拡大していくことがよい。いたずらに人の話を聞くことはないでしょう。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

西洋医学と本質的に異なる医学であることを認識して、医者にかかることが必要であると思います。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

温故知新、君子和而不同
他人と論議することは好きですが、グループ化しないのは気質です。

◆その他、ご意見ご感想などを教えてください

日本生命に勤めたのは食べるためでしたが、日本の臨床医療を外側から見つめることが出来たのは幸いでした。

入社後1年で東大医学部紛争が始まり、全国の医学部に拡大したことを考えると間違いではなかったと思っています。

小さい時からの低体温症はその後も続いて、23才で胃癌による胃2/3と十二指腸6cmを切除、54才の時には結腸癌で約80cm切除し、同時に糖尿病となり、現在に至りました。

東洋医学に焦点を移したのは、当然です。
現在が一番体力もついて充実しています。



注意:先生へのインタビューは、経歴以外、当会が2008年1月に行った内容です。